

気になる今後の町づくり

循環型社会の構築は

「すえっ肥」を活かして

問

10月21日から23日、総務建設産業常任委員会で、沖縄県宮古島市を視察しました。地下水を利用した農業振興、さとうきびによる自給自足のエネルギー供給と風力・太陽光発電事業や、身近な所で電気自動車の普及促進、ごみ・家畜排泄物による堆肥化事業等、「環境モデル都市宮古島」のエコアイランドの推進は、

答 中嶋町長

離島であるからこそできる取り組みですが、須恵町も順応するのではと考えています。自然環境の保全と資源の循環を活かされる須恵町独自のモデルを具体的に実践できないか。町長の考えを問う。



藤石 豊 議員

ごみの分別化については、燃えるごみ、燃えないごみ、ペットボトル、空き缶・空きびんの4分別で稼働するよう、クリンパークのRDF施設・リサイクル施設を建設しています。

この施設を稼働する限りは、4分別を継続しますが、新たな処理方式によることになれば、分別方式も変わってきます。



軽トラック市

堆肥センターについては、以前は、牛糞と、購入したおがくずを副資材として堆肥を製造していました。平成22年度からは、家庭からの草・木や街路樹を副資材として新しい堆肥の製造を開始し、それ以前に比べ、5倍ほどの売れ行きとなり、順調に需要が伸びています。

地産地消ということでは、「すえっ肥」を利用した家庭菜園や、新しい有機農家がうまれるなど、徐々にその方向性が見えており、菜園で栽培された野菜が、軽トラ市等で販売されているところです。

循環型社会推進

先進事業を視察

平成26年10月21日～23日、循環型社会の推進を目的とした先進的視察を視察するため、沖縄県南風原町と宮古島市を訪問しました。

南風原町

須恵町堆肥生産組合の堆肥（すえっ肥）と同様、牛糞により発生する草木・剪定枝を混ぜ合わせて堆肥化する事業を確認しました。民間企業が事業展開し、



エコセンター(南風原町)

町は、町民の堆肥購入に対し補助金を交付することで堆肥流通を促進しています。また、役場に併設されたエコセンターは、環境保全の普及啓発に向けた情報発信の拠点として、堆肥を含め、環境に配慮した商品の販売や、環境学習講座を開設しています。官民が、それぞれの役割を担う資源循環が進められています。

宮古島市

エコアイランド推進および新ごみ処理施設（ごみ焼却施設）の説明を受け、意見交換を行いました。宮古島市は、循環型社会の構築・環境保全の推進・産業振興を柱とした「エコアイランド宮古島宣言」を行っています。その取り組みの中で、国



メガローラー実証施設 (宮古島市)

が認定する環境モデル都市として、島全体をエネルギーパークと位置付け、バイオエタノール、太陽光・風力発電、電気自動車の普及等、CO₂削減と持続可能なエネルギー確保のため、さまざまな事業が実施されています。これからの、循環型社会の推進は、どの自治体でも重要な施策であり、須恵町においても、より一層、ごみの減量化、リサイクル活動の推進等に取り組んでいく必要があります。（報告者 原野敏彦委員）

次世代エネルギー施設

現状を調査

平成26年11月14日、九州電力メガソーラー大牟田発電所と、クリンパークわかすぎ（須恵町外二ヶ町清掃施設組合）のRDF（固形燃料）搬入先である大牟田リサイクル発電所を視察しました。

メガソーラー大牟田発電所

三池港に面し、平成22年11月から太陽電池パネル1万4千枚を使い、約2200戸分の家庭用電気を供給しています。季節や天候に左右されるものの、枯渇することのない無限のクリーンエネルギーとして活用されています。

大牟田リサイクル発電所

大牟田エコタウン内に位置し、RDF処理能力315t/日、発電能力20万600kWを有し、平成14年



大牟田リサイクル発電所

12月に稼働を開始しました。RDFは発熱量が高く、取り扱いが容易なことから内部循環流動床式ボイラーで高温の蒸気を発生させ、熱効率の良い発電を行い、次世代エネルギーの拠点として循環型社会の構築に向けた役割を果たしています。しかし、稼働から10年以上が経過した施設の老朽化とクリンパークわかすぎの今後の運営等、須恵町として対応策が求められるところです。（報告者 藤石豊委員）